

薬学生実務実習対策研修に参加して

高崎総合医療センター 細内 麻里奈

私は人事異動に伴い、2021年10月に高崎総合医療センターに着任しました。それまでの施設では薬学生は多くても各期2名の受け入れであり、異動後1期最大6名の受け入れは経験のないものでした。今年度より実務実習を担当することとなり、実習全体を通してのマネジメントができるか不安を感じながら2023年度の病院実習がスタートしました。そんな中、今回の研修会の開催を知り、医療安全領域における教育というテーマに興味をもち、参加を決めました。

病院施設報告では、各施設での医療安全に対する取り組みや指導の現状を交えながら学生への指導内容について、また今後の課題について教えていただきました。日々の事例を共有するだけでなく、その解決策を薬剤部内全体で考えることで、医療安全に対する意識を高めることにつながるのだと感じました。実際にあった事例を薬学生にも解決策を一緒に考えてもらうことで、よりこの医療安全というテーマを身近に感じてもらえるのではないかと思います。

関東信越グループ医療安全係長である坂元与志子先生からは、「医療安全管理者の責務と教育の実践」というテーマで講義いただきました。医療の基本である、安全な医療の提供や医療の質の向上に向けて、関東信越グループとしてどのように取り組みを行っているかを知ることができました。また、実際の看護学生に向けた医療安全教育の実例を提示いただきました。関東信越グループ内におけるヒヤリハット事例や医療事故それぞれの分析を行い、共有することや、各施設間での相

互チェックを通して医療安全を自分事と捉えることで安全の文化が醸成されていくのだと感じました。対象者にあわせて課題を設定し、問題解決に向け自発的な動機付けを行うことで問題への向き合い方が変わってくるのだと思います。

また、慶應義塾大学医療薬学・社会連携センター長である中村智徳先生からは「大学における医療安全・医薬品安全の教育」というテーマで講義いただきました。実際に薬学部の講義で使用するスライドを用いて講義いただくことで、学生が学んできた内容や学び方のステップアップの仕方を知ることができました。実務実習という場で、実際の事例を検討することが薬学生の学びのきっかけにつながっていることも改めて知ることができ、今後の実務実習でも積極的に取り入れていきたいと思っています。

研修を通し、日々の業務で起こる様々なことを薬剤部内で共有・報告できる環境づくりがとても大切であると学びました。薬学生が大学で学んだ知識を実務実習で体感し、薬剤師としての自覚につなげていくことが実務実習において重要だと感じます。また、次年度より改訂コア・カリキュラムが運用開始となるため、薬学生がどのようなことを学んで実務実習に臨んでいるか等しっかりと知識をアップデートしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような研修会を開催いただいた関東信越グループの先生方、また忙しい業務の中研修会に参加させていただいた高崎総合医療センター薬剤部の皆様に厚く御礼申し上げます。